

〔地内基幹送電線に関する公開情報〕

エリア:九州電力株式会社

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	区間		回線数	設備容量 (100×回線数) (MW)	運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	備考
			(起点)	(終点)					
1	北九州幹線	500kV	脊振ss	— 北九州ss	2	9,872	4,936	熱容量	
2	豊前北幹線	500kV	豊前ss	— 北九州ss	2	9,872	4,936	熱容量	
3	豊前西幹線	500kV	豊前ss	— 中央ss	2	6,580	3,290	熱容量	
4	東九州幹線	500kV	東九州ss	— 豊前ss	2	13,162			フェンス1
5	脊振幹線	500kV	脊振ss	— 中央ss	2	13,162	6,581	熱容量	
6	佐賀幹線	500kV	西九州ss	— 中央ss	2	5,568			フェンス2
7	玄海幹線2L南線	500kV	西九州ss	— 脊振ss	1	6,581			フェンス2
8	熊本幹線	500kV	熊本ss	— 中央ss	2	6,580	3,290	熱容量	
9	中九州幹線	500kV	中九州ss	— 熊本ss	2	9,872	4,936	熱容量	
10	南九州幹線	500kV	南九州ss	— 中九州ss	2	9,872			フェンス3
11	宮崎幹線	500kV	宮崎ss	— 南九州ss	2	9,872	4,936	熱容量	
12	槻田線	220kV	槻田sws	— 北九州ss	2	2,895	2,895	熱容量	※3
13	西谷線	220kV	北九州ss	— 西谷ss	3	918	703	熱容量	※2 ※3
14	北九州豊前線	220kV	豊前ss	— 北九州ss	2	612	612	熱容量	※3
15	上津役線	220kV	北九州ss	— 上津役ss	2	1,224	703	熱容量	※3
16	西谷門司線	220kV	西谷ss	— 門司ss	2	608	334	熱容量	※3
17	苅田分岐線	220kV	苅田ss	— 西谷ss	2	612	352	熱容量	※3
18	到津線	220kV	到津ss	— 槻田sws	1	458	458	熱容量	※1 ※3
19	大分北線	220kV	西大分ss	— 豊前ss	2	612			フェンス1
20	大分南線	220kV	大分ss	— 西大分ss	2	1,224	1,224	熱容量	※3
21	東大分線	220kV	東大分ss	— 大分ss	2	1,447	1,447	熱容量	※3
22	山家線	220kV	中央ss	— 山家ss	2	2,448	1,407	熱容量	※3
23	筑豊線	220kV	中央ss	— 筑豊ss	2	1,952	1,024	熱容量	※3
24	山家東福岡線	220kV	山家ss	— 東福岡ss	2	2,470	1,296	熱容量	※3
25	東福岡住吉線	220kV	東福岡ss	— 住吉ss	3	855	627	熱容量	※2 ※3
26	唐津西九州線	220kV	西九州ss	— 唐津ss	2	976	512	熱容量	※3
27	武雄線	220kV	西九州ss	— 武雄ss	2	1,224	1,224	熱容量	※3
28	松島火力線北線	220kV	東佐世保s	— 西九州ss	2	2,172	2,171	熱容量	※3
29	長崎幹線	220kV	武雄ss	— 長崎ss	2	730	351	熱容量	※3
30	諫早分岐線	220kV	武雄ss	— 諫早ss	2	1,224	703	熱容量	※3
31	鳥栖木佐木線	220kV	木佐木ss	— 鳥栖ss	2	1,224	703	熱容量	※3
32	脊振鳥栖線	220kV	脊振ss	— 鳥栖ss	2	1,224	1,224	熱容量	※3
33	木佐木三池線	220kV	三池ss	— 木佐木ss	2	1,224	1,224	熱容量	※3
34	熊本南熊本線	220kV	南熊本ss	— 熊本ss	2	1,224	703	熱容量	※3
35	熊本日田線	220kV	熊本ss	— 日田ss	2	612	407	熱容量	※3
36	中九州南熊本線	220kV	中九州ss	— 南熊本ss	2	1,224	1,224	熱容量	※3
37	鹿児島北線	220kV	南九州ss	— 人吉ss	2	612			フェンス3
38	八代分岐線	220kV	中九州ss	— 八代ss	2	636	349	熱容量	※3
39	鹿児島南線	220kV	南九州ss	— 鹿児島ss	2	612	612	熱容量	※3
40	高野線	220kV	南九州ss	— 高野sws	2	2,472	1,297	熱容量	※3
41	霧島分岐線	220kV	南九州ss	— 霧島ss	2	2,472	1,297	熱容量	※3
42	都城線	220kV	高野sws	— 都城ss	2	1,952	1,024	熱容量	※3
43	大隅線	220kV	高野sws	— 大隅ss	2	2,172	1,085	熱容量	
44	南宮崎線	220kV	南宮崎ss	— 高野sws	2	1,952	1,024	熱容量	※3
45	海崎線	220kV	東九州ss	— 海崎ss	2	1,236	648	熱容量	※3
46	脊振西福岡線	220kV	脊振ss	— 西福岡ss	2	4,343	2,171	熱容量	
47	宮崎分岐線	220kV	南宮崎ss	— 宮崎ss	2	2,896	1,447	熱容量	
48	久留米分岐線	220kV	鳥栖ss	— 久留米ss	2	990	544	熱容量	※3
49	中央南福岡線	220kV	中央ss	— 南福岡ss	2	952	523	熱容量	※3
50	北佐賀木佐木線	220kV	北佐賀ss	— 木佐木ss	2	2,896	1,447	熱容量	
51	速見分岐線	220kV	西大分ss	— 速見ss	2	1,236	648	熱容量	※3
52	脊振伊都線	220kV	脊振ss	— 伊都ss	2	670	368	熱容量	※3
53	弓削分岐線	220kV	南熊本ss	— 弓削ss	2	1,470	771	熱容量	※3

● フェンス管理箇所情報

フェンス No	フェンス名	電圧 (kV)	区間			運用容量値 (MW)	運用容量 制約要因	備考
			(起点)	(終点)				
1	大分フェンス (4、19)	500kV	北向き			3,100	熱容量	
2	西部フェンス (6、7)	500kV	東向き			7,200	安定度	
3	南部フェンス (10、37)	500kV	北向き			1,800	周波数	

・電圧や系統安定度の制約により、運用容量値が変わる場合があります。

※1 1回線送電線のため、1回線設備容量を記載

※2 3回線送電線のため、1回線故障時を考慮し、2回線分の容量を記載

※3 1回線事故時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮

